

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1955
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.48, No.9 (1955. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19550901--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾經濟學會
九月號

昭和三十年九月一日發行
昭和二十六年二月十三日發行
昭和二十五年十月二十四日發行
國鐵特別運送承認
第三種郵便物認可
第一日發行

論說	アルフレッド・マーシャルにおける交通論……増井健一(一)
資料	ソ連の農業問題……氣賀健三(二五)
	現代ドイツ社會學の思考狀況に關するノート ——その人間中心主義的志向をめぐつて——
	石坂巖(三)
	宗門改帳より壬申戸籍へ(四) ——維新期の人口調査とその一例——
	速水融(四)
	農地改革後における山林地主の一存在形態 ——割山慣行の實態とその本質——
	平野絢子(五)
書評及び紹介	
經濟學關係文獻目錄	

第四十八卷

第九號

MITA GAKKAI ZASSHI (Mita Journal of Economics)

Vol. 48, No. 8

August, 1955

CONTENTS

	Page
The Nature of Economics and the Japanese Economy	R. Suzuki (1)
Input-Output Analysis (3)	M. Fukuoka (13)
—The Dynamic System—	
Welfare Economics and Its Ethical Value-Judgment	S. Tomita (22)
Bevanism and the British Labour Party	K. Iida (38)
Reviews and Notes	

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio-Gijuku University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 70 yen

昭和二十五年十月二十四日發行
昭和二十六年八月十三日發行
國鐵特別運送承認
第三種郵便物認可
第一日發行

三田學會雜誌

昭和三十年八月號

定價 金七〇圓

(八四)

書評及び紹介

クズネッツ著『高額所得者における所得と貯蓄の割合』	鈴木 諒 一(五)
M・フリードマン著『實證經濟學の方法論』	富田 重 夫(七)
ユルゲン・クチンスキー著『ドイツ經濟史』	飯田 鼎(七)
高橋正雄・中内通明譯	關 口 操(七)
スコット・A・グリーア著『社會組織』	平野 絢 子(八)
栗原百壽著『農業問題入門』	………

アルフレッド・マーシャルにおける交通論

増 井 健 一

(一) ま え が き

ここに掲げた「アルフレッド・マーシャルにおける交通論」という題名でもつて、わたくしは、マーシャルが体系的な交通論を展開していることを示唆しようとするものではない。われわれは、ただ、彼の著述のここかしこにおいて、交通に觸れて述べているところから、たかだか、彼の交通観を窺い得るに過ぎない。しかもなお、ここに特にとりあげて論じようとする所以は、一には、マーシャルの所説を考察することによつて「英國の傳統的な經濟學」の交通観の一端を知り得ると思われる故であり、二には、マーシャルの所説中に、交通論自體にとつて興味のある若干の點——たとえば差別賃率の根據についての見解——を見出し得る故である。この稿は、まず、右の第一の關心點について論じ(一)——(四)その後第二の關心點について論ずる(五)。

(註一) traditional orthodox economics という言葉があるようである。[Joan Robinson, An Essay on Marxian Economics, P. 1.] ここでは、英國の古典學派から新古典學派にかけての諸説を指すつもりである。